

日本在宅 医学 会誌

Vol.6 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

●巻頭言	在宅医学を教育の場に—大学の教室に開かれた学会—	佐藤 智
●第6回日本在宅医学会大会		
特別講演Ⅰ	卒後研修必修化と地域医師会の新しい任務	小谷 秀成
特別講演Ⅱ	在宅医療と医学教育	伴 信太郎
特別講演Ⅲ	新医師臨床研修制度と地域医療	中島 正治
ワークショップⅠ	在宅医療と医学部教育	座長 丸井 英二, 安田 英己
	(シンポジスト: 大津忠弘・片岡 廉、他・田城孝雄・辻彼南雄、他・浅井幹一、他・森 博彦、他)	
ワークショップⅡ	在宅医療と卒後必修化研修	座長 谷本 光音, 英 裕雄
	(シンポジスト: 谷本光音、他・福岡英明、他・菅原 明、他・大河内明日香、他・中村昭子)	
教育講演Ⅰ	地域包括ケアを担う医師の機能と養成	青山 英康
教育講演Ⅱ	これからの在宅医療に期待すること	橋本 泰子
ランチョンセミナー	尿失禁—病診連繋および在宅医療への提言	大橋 輝久
研究報告	(一般演題)	
●新医師臨床研修制度と日本在宅医学会		
●原著	豊島区の寄せられた疥癬に関する相談内容の分析	関 なおみ
●在宅医療のためのトピックス	在宅ケアにおける介護者の負担	中神百合子
●エッセイ	はたして美談で在宅医療は広まるのか	飯田 明
日本在宅医学会認定専門医制度規程	107	投稿承諾書
投稿規定	111	編集後記
		115

●巻頭言

在宅医学を教育の場に
－大学の教室で開かれた学会－



佐藤 智 日本在宅医学会会長

今年の岡山の学会は、加藤恒夫大会長のもとに、岡山大学医学部を使わせて頂き、暖かい雰囲気の中で開かれました。主な会合は、大きい階段教室で行われたので、参会者の顔が一人一人見えて、正に“face to face”の感じでした。とくに主題が「教育」にあったので、各年齢層の医師だけでなく、医学生も参加して討論に加わったり、この学会らしい展開であったと思います。日本の医学会は最近、大都市のホールを使うことが多くなり、便利であると共に顔と顔が見えなくなりつつあります。日本もこの辺で、学会の在り方を再考すべきでしょう。

この学会の始から問われている問題の一つは「果たして《在宅医学》というものがあるのか」ということです。私は、第1回の学会で申し上げましたが「在宅」を中心にした「研究」と「教育」が積み重ねられて「在宅医学」が定着すると思います。

今回の学会は今まで忘れがちであった「教育」を取り上げられたことは時宜をえたことです。今年から「新しい研修医制度」が医学部卒業生に始まり、その中心にあって企画された厚生労働省の中島正治さんにおいて頂き、親しくお話を伺い、質疑応答の時をもつことができました。医学部の学生も出席して熱心に質問していたのが印象的です。新しく国家試験に合格し医師になったものは、臨床を志す限り2年間の「研修医制度」を受け、その中で「2カ月間の保健所、在宅医療など」の実体験が必要になり、従来のように「大病院以外は知らない医師」がなくなる筈で、これは大きな変革です。日本のこの50年間の「病院中心医療への流れ」が改められ、「在宅医療」へ向いてくるでしょう。

ただ「新しい研修医制度」が出来ただけで、大きな流れが急に変わることは困難でしょう。すでに在宅医療を実践しているわれわれ医師が、今後いかに国民の信頼をえて、評価されてゆくのが今や問われています。

この学会はまだまだ小さい存在ですが、「地の塩」「世の光」として、混沌としている日本の医療に「味をつけ、道しるべを示す」ものであることを願っております。

(以上)